

料, 舟材などに利用される種数にというように, 植物との結びつきに自然環境, 生活様式の相違に基づくバラツキがみられた。舟材を除いた16の用途項目を詳しく検討してみると, 両島は, 全体として共通の文化伝統を反映していた。

ニホンザルの奇形に関する現状調査と原因の探究

峰澤 満, 後藤俊二,
浜田 稔 (京大・霊長研)
好広 真一 (京大・理)
本間 敏彦 (順天堂大・医)
中南 元, 植村振作
(阪大・医)
杉田仁志

ニホンザルにおいて, 餌付け群を中心に広範囲かつ高頻度に出現している四肢奇形の原因を明らかにするため, a. 既調査群の継続調査 (小豆島・宮島・淡路島), および未調査群における実態把握 (滑床溪谷・大堂岬・金華山・屋久島), b. 捕獲による, 奇形個体およびその家系の個体の形態学的・遺伝学的・臨床医学的調査 (淡路島・宮島), c. 餌・飲料水中の有害化学物質の分析, d. 資料目録の整備などを行おうとした。

1. 現状調査: 未調査群では, 大堂岬のみにおいて2頭の奇形個体が発見された。吾妻山では群を発見できなかった。奇形個体の既報告群では, 淡路島に4頭, 宮島・長瀬・高崎山で各1頭, 1980年生れの奇形個体が観察されている。この結果は, ここ数年の傾向と一致し, 1970年代中頃と比較すると奇形個体の出現が少なくなっている。

2. 形態学的調査: 奇形個体とその母猿の生体計測・X線写真の資料の収集, 奇形個体の解剖を行った。また, 宮島からの奇形新生児を飼育し, その形態発達を観察している。

3. 染色体異常: 高崎山・宮島・臥牛山・波勝崎・志賀A・C・長瀬の各群からの個体, 62頭について分染法 (G, C, Q, R, Nバンド法) を用いて核型分析を行った。染色体異常の個体は観察されなかった。

4. 血液検査: 赤血球数・白血球数・ヘマトクリット・ヘモグロビン量・血漿総蛋白量・GOT・GPT・グルコース・総コレステロール・血中尿

素窒素・カルシウムを調査した。奇型・正常の両者間に差は見られなかった。

5. 化学分析: 大豆, 小麦のくん蒸剤 (臭化メチル, EDB, EDC, ECH), 有機リン農薬 (ENP, DDVP, MEPなど), みかんの殺菌剤 (TPM, MBC) について分析した。有機リンが一部の群で検出されたが四肢奇形の原因と考えられなかった。

本研究は, 81年度も継続して行われ, 資料目録整備を含め, 調査を続行する。

3. 研究会

課題1. ニホンザルの群れの統合機構

期 日 昭和55年11月25・26日

場 所 霊長類研究所会議室

参加者 約70名 (所外45, 所内25)

プログラム

第1部 個体間の社会関係と集団の統合

座長 糸魚川 直 祐 (阪大・人間科学)
岡野 恒 也 (静岡大・教養)

1. 集団のまとまりと順位認知

小山 高 正 (阪大・人間科学)

2. 子供の社会関係

早木 仁 成 (京大・理)

3. 社会関係と配偶関係

高畑 由起夫 (京大・理)

4. メスの同性間行動

ジャン・バルセロ (京大・霊長研)

第2部 離脱・分裂・遊動と集団の統合

座長 西田 利 貞 (東大・理)

杉山 幸 丸 (京大・霊長研)

5. 幸島における離脱メスを中心にして

作られた分裂群

宮藤 浩 子 (京大・霊長研)

6. 雌の群れ離脱

杉山幸丸・大沢秀行 (京大・霊長研)

7. 屋久島KO群の分裂の経過

黒田末寿・増井憲一・古市剛史

(京大・理)

8. 遊動と群間関係

田 中 進 (マカク研)